

GMO INTERNET

(4784)

2025年12月期 通期決算説明資料

2026年2月12日

代表取締役 社長執行役員 伊藤 正

Copyright © GMO Internet, Inc. All Rights Reserved.

本日はお集まりいただきありがとうございます。
代表取締役 社長執行役員の伊藤でございます。
これよりGMOインターネット株式会社
2025年12月期 通期決算説明会を開始いたします。

1. 2025年 通期決算サマリ
2. 成長戦略・各分野の進捗と施策
3. 2026年 業績予想・成長戦略
4. 株主還元について
5. 参考資料

本日のアジェンダはご覧の通りです。
決算の状況や成長戦略にそった各分野の進捗に加え、
2026年の業績予想についても
皆様にお伝えいたします。

1. 2025年 通期決算サマリ

2. 成長戦略・各分野の進捗と施策

3. 2026年 業績予想・成長戦略

4. 株主還元について

5. 参考資料

ではまず、2025年の通期決算についてお話しします。

	2025年通期 累計	通期予想	通期進捗率
売上高	785億円	750億円	104.7%
営業利益	82.2億円	80億円	102.8%
経常利益	83.4億円	78億円	106.9%
純利益	55.6億円	50億円	111.2%

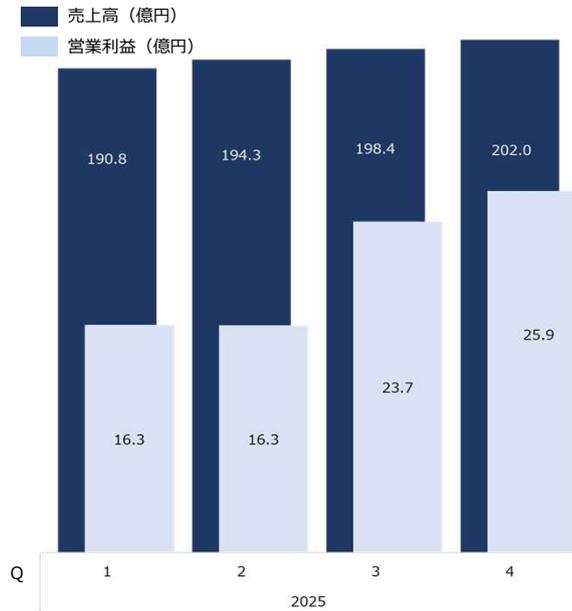
**新体制1年目
通期業績予想を上回る着地**

4

こちらが連結の通期決算です。

新体制の1年目は、全指標において通期業績予想を上回ることができました。

なお経常利益・純利益が営業利益よりも進捗率が高くなっておりませんが、
経常利益に関しては為替差益によるもの、
純利益においては繰越欠損金の適用により、期初想定より実効税率が下がったことによるものです。



売上高 QoQ +3.6億

増加要因

- ・ GPUクラウド事業において売上が増加
- ・ Q3に続きドメイン大口取引発生

営業利益 QoQ +2.2億

増加要因

- ・ インフラ既存事業が順調に推移
- ・ GPUクラウド事業 四半期ベースでも黒字化
- ・ 広告事業 収益回復し期末需要取り込み

続いて、四半期ごとの売上高・営業利益の推移についてご説明します。

売上高は前四半期からプラス3.6億円の202億円、
 営業利益はプラス2.2億円の25億9000万円となりました。
 GPUクラウドの利益貢献もあり、前四半期から増加致しました。

- ▶ GPUクラウド事業は立ち上げフェーズ完了
安定的な事業運営へ
- ▶ インフラ既存事業は順調
岩盤ストック収益として継続的に貢献
- ▶ 広告事業の収益性改善は取り組み一巡
短期的な立て直しは完了

2025年の各事業における状況について概況をまとめました。

新規事業であるGPUクラウドは、
2024年11月のサービス開始からの立ち上げフェーズが完了し、
下期にかけて事業の状況が安定的になってまいりました。

ドメイン・レンタルサーバーやプロバイダーなどのインフラ領域の既存事業は年
間を通して順調に推移しており、
岩盤ストック収益として継続的に収益貢献をしています。

広告事業については、第2四半期以降収益性の改善に向けた取り組みを行ってき
ましたが、
対応が一巡し、短期的な立て直しについては完了したものと考えています。

連結業績サマリ（通期累計・セグメント別）

	売上高	営業利益
インターネットインフラ事業	659億円	86.3億円
インターネット広告・メディア事業	131億円	2.0億円
その他及び連結消去	▲6.1億円	▲6.0億円

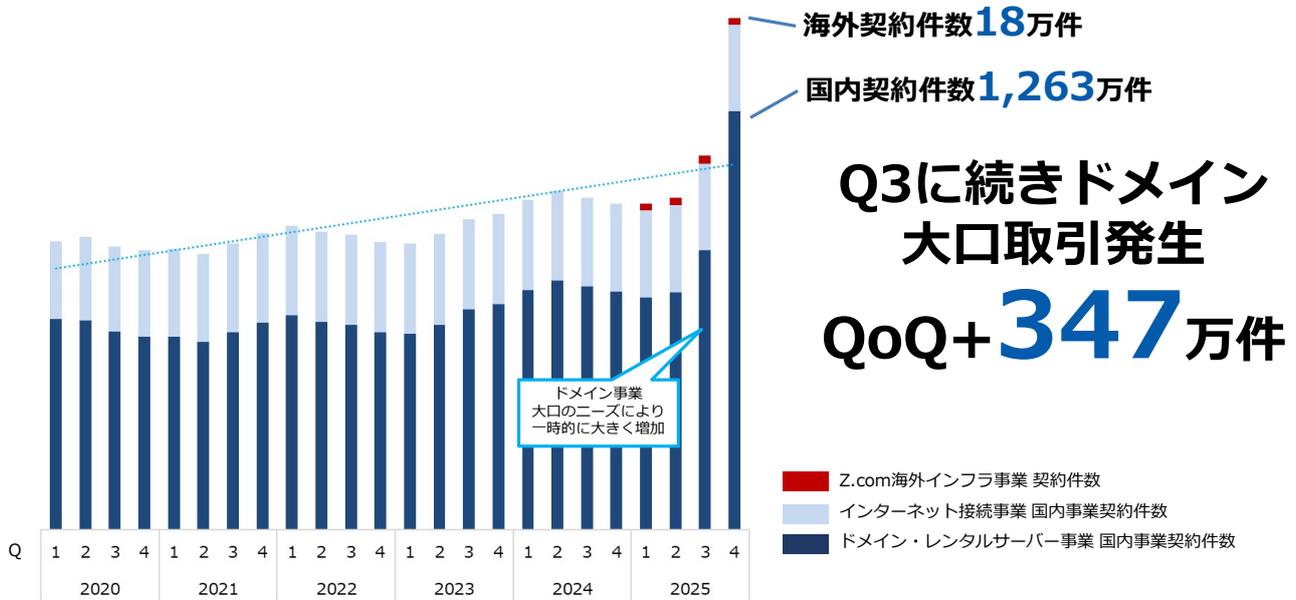
7

続いて、セグメント別の状況についてです。
こちらは短信に記載されているセグメントに分けております。

連結業績サマリ（通期累計・セグメント内訳）

			売上高	営業利益
インターネット インフラ事業	ドメイン・ レンタル サーバー事業	  GMO GPUクラウド	207億円	51.2億円
	インターネット 接続事業	 GMO BIZアクセス	413億円	79.4億円
	インフラ その他	海外事業 インフラ事業 共通費等	38.5億円	▲44.3億円
インターネット 広告・メディア 事業	インターネット 広告・メディア 事業	GMO NIKKO GMO INSIGHT	131億円	11.4億円
	広告・メディア その他	広告事業 共通費等	- 億円	▲9.4億円
その他及び連結消去		全社共通費等 連結消去	▲6.1億円	▲6.0億円

セグメントの内訳をさらにブレイクダウンしたものがこちらです。
 各事業の状況はご覧の通りです。
 こちらの前年比較や推移については、後ほどご説明させていただきます。

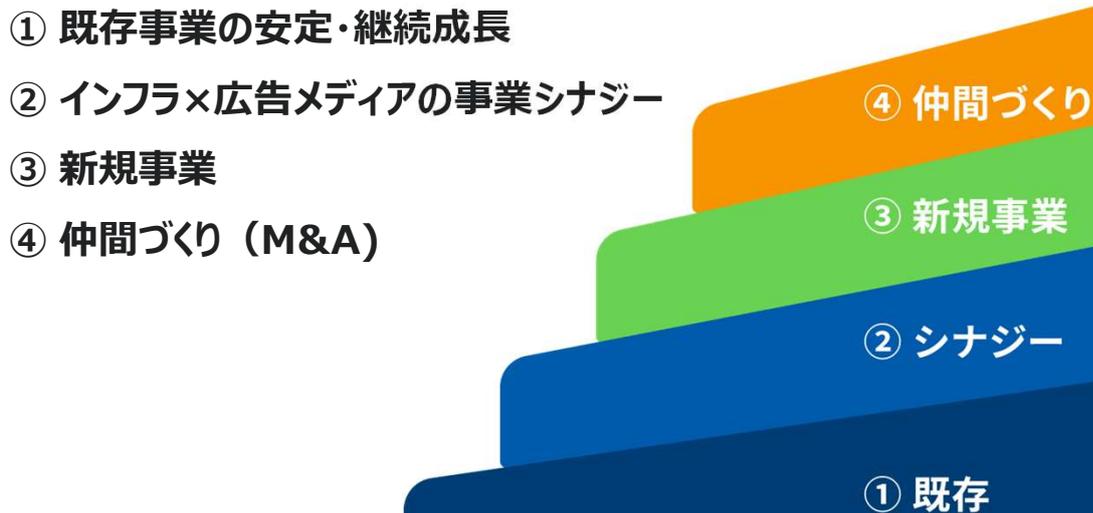


こちらは各事業における契約件数の推移です。
第4四半期においては、国内の全事業を合算した契約件数が1,263万件となりました。

大幅に増加をしておりますが、
これは第3四半期と同様、ドメイン事業において大口のお客様の契約があったことによるものです。

1. 2025年 通期決算サマリ
2. 成長戦略・各分野の進捗と施策
3. 2026年 業績予想・成長戦略
4. 株主還元について
5. 参考資料

続いて、成長戦略に沿って各分野の進捗状況をお話します。



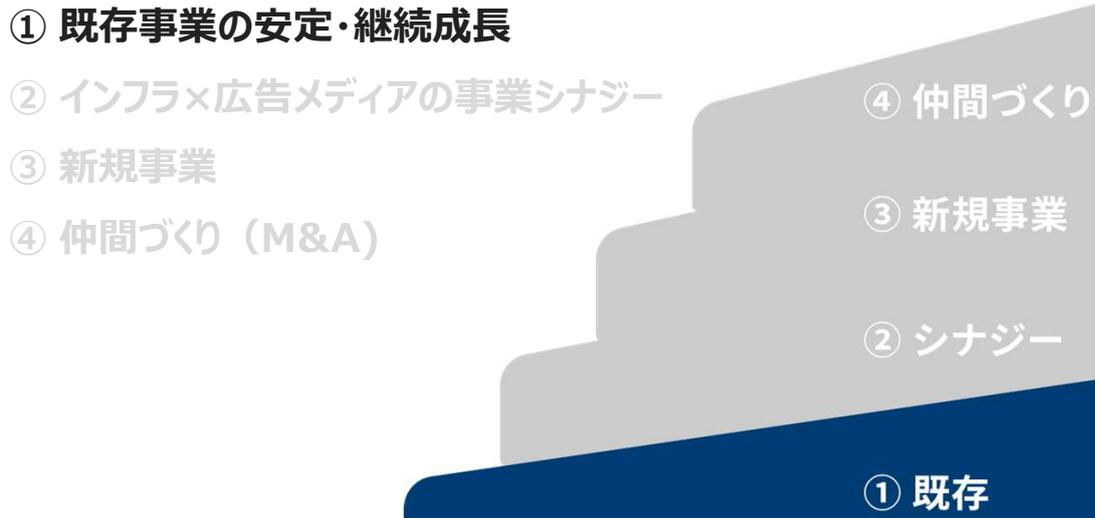
こちらの図は今後の成長戦略のイメージです。
改めて内容についてご説明をさせていただきますと、この成長戦略は4つのカテゴリーで構成しています。

1つめに、強固な収益基盤であるインターネットインフラ事業などの既存事業を、安定的に継続成長させていきます。
これは当社のベースとなるところです。

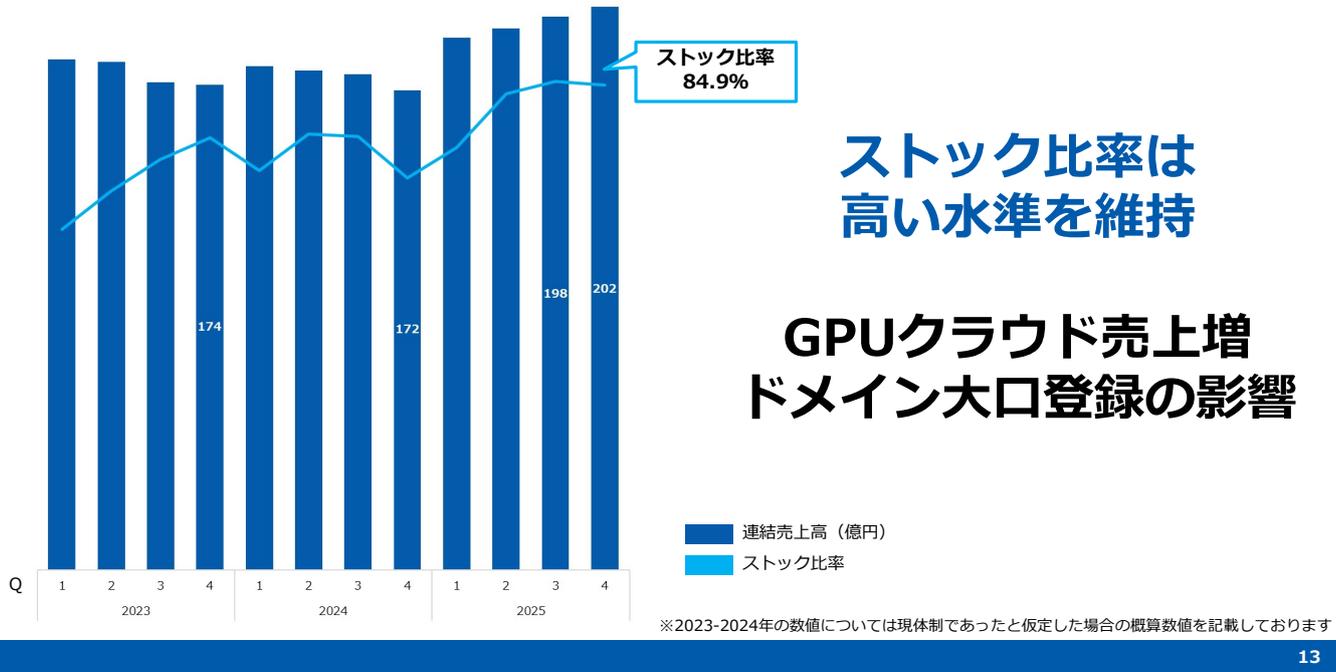
2つめに、インフラ事業と広告メディアの事業シナジーにより既存事業の更なる成長を見込んでいます。

3つめに、GMO GPUクラウドなどの新規事業を成長ドライバーと捉えております。

4つめに仲間づくりへの投資によって、利益規模の拡大と企業価値の向上を図ります。



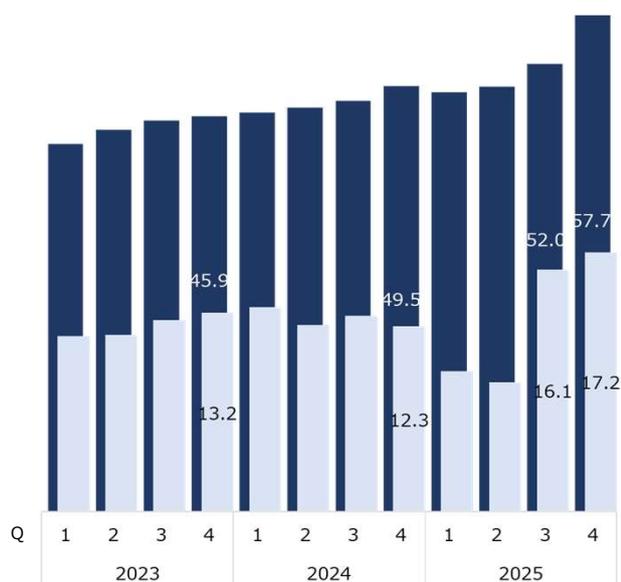
まずは既存事業の状況についてご説明させていただきます。



契約件数とあわせて、既存事業の収益基盤の指標としているストック比率です。

第4四半期の売上高におけるストック比率は84.9%となりました。GPUクラウド事業の成長およびドメイン事業における大口契約によって売上が増加し、堅調に推移しています。

引き続き高い比率をキープしており、当社の安定的な収益基盤に継続的に寄与しています。



GPUクラウド事業
四半期黒字化達成

既存事業も
ドメイン中心に堅調
売上・利益ともに増加

■ 売上高 (億円)
■ 営業利益 (億円)

※2023-2024年の数値については現体制であったと仮定した場合の概算数値を記載しております

14

続いて事業ごとの状況についてご説明いたします。

まずドメイン・レンタルサーバー事業の状況です。
売上高・営業利益についてグラフにまとめております。

売上高・営業利益ともに前四半期・前年を上回る着地となりました。

GPUクラウド事業が四半期で黒字化を達成し収益寄与が始まっていることに加え、
既存事業においても引き続き堅調に推移しております。



Domain name registrars, by the number of registered domains

The table breaks down the distribution of all domain names registrations between registrars, which are companies accredited by the Internet Corporation for Assigned Names and Numbers (ICANN) to put domain names on sale.

Registrar name	Registered domains	Share, %
GoDaddy.com, LLC	89,705,834	10.84%
NameCheap, Inc.	28,521,449	3.45%
Tucows Domains Inc.	13,546,604	1.64%
GMO Internet Group, Inc. d/b/a Onamae.com	12,278,083	1.48%
Dynadot Inc	10,962,516	1.33%

出典 : Domain Name Stat (<https://domainnamestat.com/statistics/overview>)

ドメイン累積登録数
4,200万件超

管理ドメイン数[※]
世界 4位

※2026/2/3時点のアクティブドメイン管理数

当社のドメイン登録サービス「お名前.com」は、アジア圏初のドメイン登録事業者として認定を受け、1999年9月のサービス開始から今年で26周年を迎えました。

おかげ様でドメイン登録実績は4,200万件を突破し、国内シェアは1位。世界のドメイン登録ランキングでも4位の事業者として、「安く・早く・簡単」をコンセプトに、どなたでもドメインを登録できる環境を提供しています。

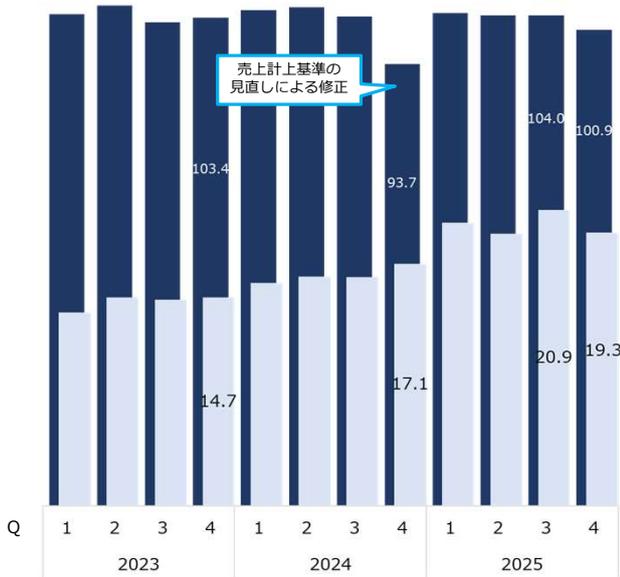


実行型AIエージェント 「OpenClaw」対応

**VPSのセキュアな環境で
運用が可能**

レンタルサーバーサービス『ConoHa VPS』では、大変注目度の高い実行型AIエージェント「OpenClaw（オープンクロウ）」を、簡単に自動構築する機能の提供を開始いたしました。

VPSを利用することで、お客様のネットワークと切り離れた運用ができ、セキュリティ管理がしやすい仕組みを実現しています。



**自社商材注力で
利益改善を重視**

**四半期での増減はあるが
利益増加傾向は継続**

※2023-2024年の数値については現体制であったと仮定した場合の概算数値を記載しております

つぎに、インターネット接続事業です。

引き続き売上においては横ばい傾向ではありますが、前四半期までに続き販売ミックスの改善による利益率改善を継続しています。営業利益に関しては四半期ごとに若干の増減がありますが、前年対比では増加しており、引き続き着実に利益を積み上げることができています。

自社商材を含め、販売ミックス最適化
短期/中長期の売上・利益をバランスよく構築し
岩盤ストック収益の強化を図る



先ほどご説明したインターネット接続事業の
販売ミックス最適化について、補足してご説明します。

インターネット接続事業では、自社商材および他社回線を含む
複数商材を展開しております。

商材ごとに収益化までのスピードやLTVが異なるため、
短期・中長期の売上・利益をバランス良く構築する
販売ミックス最適化を継続して推進しており、
岩盤ストック収益の強化を図っております。



GIGAスクール構想 教育機関専用のインターネット回線サービス



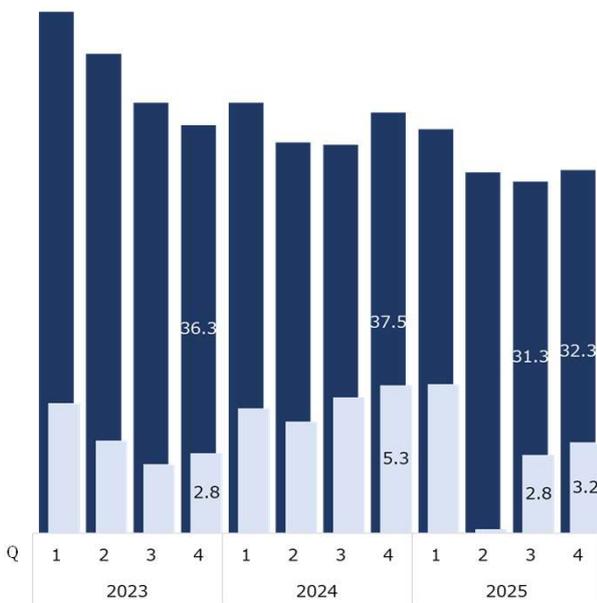
導入実績 **2,000** 校以上



36都道府県 **177**自治体 **2,281**校への導入

こちらは、文科省が推進する「GIGAスクール構想」に基づく取り組みです。生徒1人1台の端末と高速回線で、最適な学習環境を目指しています。全国の教育機関への導入が進み、2000校を超える実績がでてまいりました。

この「GMO光アクセス for Education」は、教育機関専用回線として、個人、法人回線とトラフィックを分離し、高速で安定した通信環境を提供しています。



Q2に組織体制見直し
Q3以降回復傾向

※2023-2024年の数値については現体制であったと仮定した場合の概算数値を記載しております

続いてインターネット広告・メディア事業の状況です。
2025年においては、業界全体として広告運用のAI化の流れが進み、代理店を通さない自社運用がすすんだことの影響が大きく、第2四半期に組織体制の見直しを実施しておりました。

その後第3四半期には利益が回復し、この第4四半期についても、期末需要の増加などもあり、売上・利益ともに前四半期と比較して増加をしています。

GMO NIKKO



AIを活用した Web集客総合ツール

SEO・SNS運用・記事制作は
AIで効率的に高品質運用へ

21

事業のトピックスとしては、GMO NIKKOから、AIによるWeb集客支援ツール「GMO AIかんたん集客」の提供を開始いたしました。

こちらのツールは、専門知識が必要なSEO対策やSNS運用などのWEB集客を、AIのサポートにより誰でも簡単に実施できるようにするものです。

GMO ユナイトエックス



世界トップクラスの
ライブコマース企業と提携

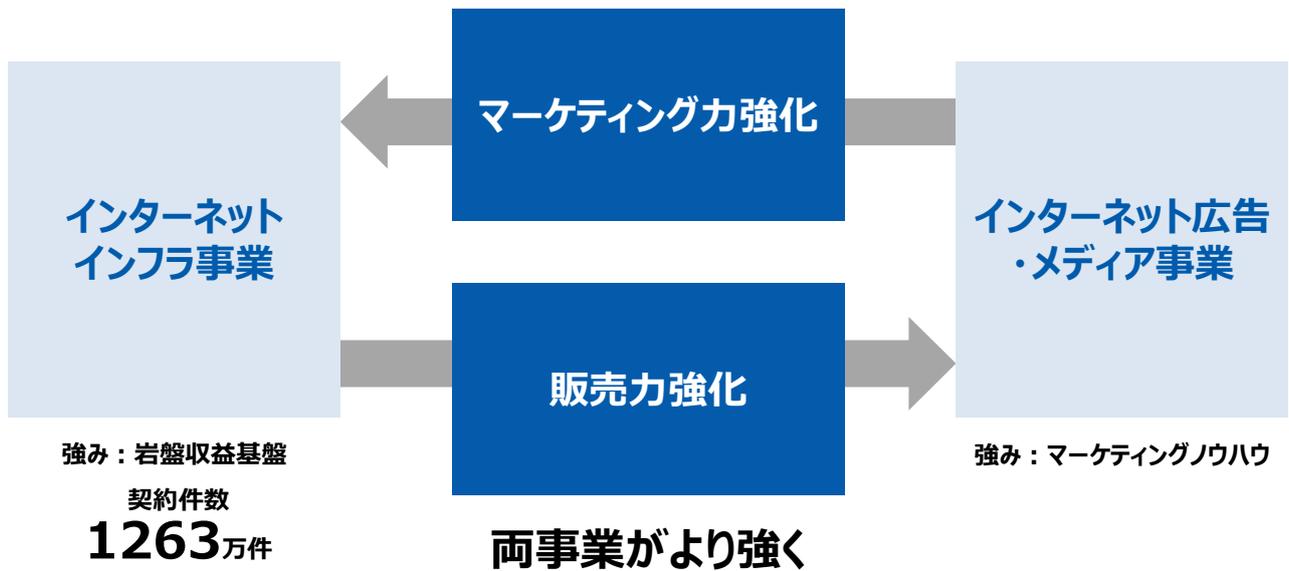
ライブ配信から販促まで
一気通貫で支援

※業務提携先：LiveLab Media JP株式会社
中国・東南アジア・北米などを含むグローバルでライブコマース事業を展開する、世界流通総額450億円のライブコマース大手 TECDO TECHNOLOGY CO., LIMITED の日本法人

こちらは、GMOユナイトエックスが、世界トップクラスのライブコマース企業 Tec-Do様の日本法人と協業し、TikTok Shopをはじめとする日本のライブコマースを支援する事業を開始いたします。



それでは続いて、インターネットインフラ事業とインターネット広告・メディア事業のシナジーに関する取り組み状況についてご説明いたします。



こちらは昨年2月の決算説明会から継続してご説明している図ですが、インフラ事業・広告メディア事業間のシナジーをまとめております。

広告メディア事業のマーケティング力をインフラ事業の新規顧客獲得に活用するほか、インフラ事業の岩盤収益基盤のお客様に対し、広告メディア事業の商品を販売していくことで売上の更なる拡大が可能であると考えています。

先ほどご説明の広告・メディア事業の足元の状況を鑑み、インフラ事業のマーケティング力強化、そして組織の最適化に向けた施策を実施致しました。

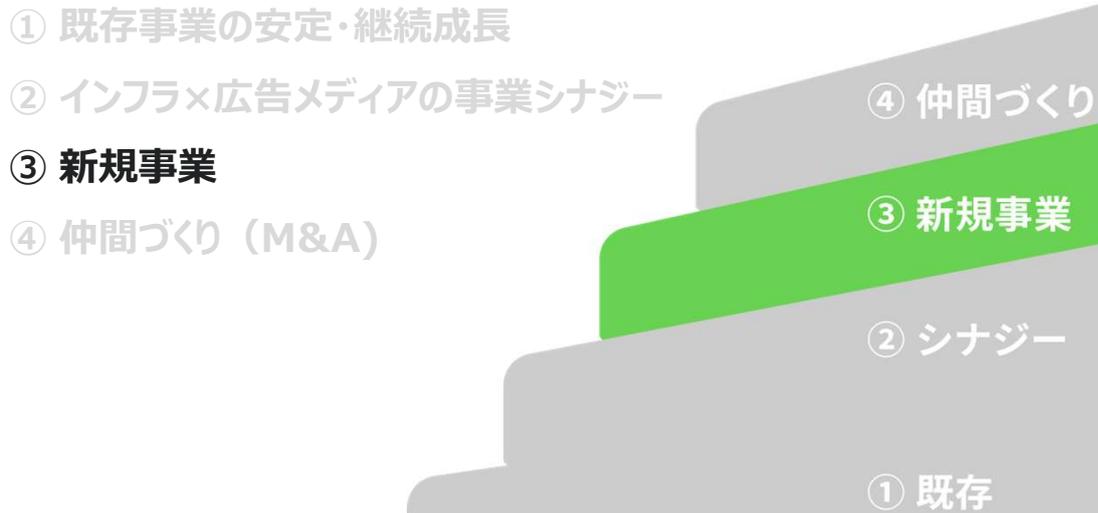


集客支援サービスをお名前.comの顧客に提供
ドメイン取得後の集客ニーズをサポート
マーケティング支援へ展開、ストック収益化を図る

シナジーの事例として、
先程紹介させていただいた「GMO AIかんたん集客」とお名前.com施策について
ご説明いたします。

ドメイン取得後に集客施策を検討されるお客様のニーズをサポートします。

インフラ事業の顧客基盤とのシナジーによりストック収益化を期待しています。



続いては、新規事業GMO GPUクラウドの状況についてご説明させていただきます。



四半期黒字化
2026年は通期黒字へ
NVIDIA HGX B300
国内最速で提供開始

27

GPUクラウドの状況ですが、第3四半期では単月黒字でしたが、今四半期は四半期を通しての黒字となりました。

2026年については通期での黒字計画となり、投資回収を進めていくとともに、需要に応じてさらなる投資を続けていきます。

また、B300の提供を昨年12月より国内最速で開始いたしました。

TURING



32億円出資
GMO GPUクラウド
長期契約予定
(今後4年間、0.37 EFLOPS※の大規模AI計算基盤を提供)

※総理論演算性能 0.37エクサフロップス (EFLOPS)
FP16 Tensor Core (スパース性なし) における理論値
一定の前提条件下における、今回提供するサーバーの計算能力の理論上限を示しています。

28

GPU関連のトピックスとしては、AIを活用した完全自動運転を目指すスタートアップであるTuring様への出資およびパートナーシップ契約の締結です。

当社からTuring様に32億円の出資を行うとともに、GPUクラウドの0.37エクサフロップスの計算基盤を4年間提供致します。

これにより、Turing様は成長に必要な資金を調達しつつ、計算資源を安定して確保することができます。

一方当社は、GPUの中長期的な需要を確保するとともに、Turing様の先端的な知見を商品開発に活かすことが可能となります。

TURING

**2030年に完全自動運転を目指す
カメラの映像情報をAI分析、AIで認識・制御を行う
(E2E自動運転モデル)**

チューリング株式会社 CEO 山本 一成 氏

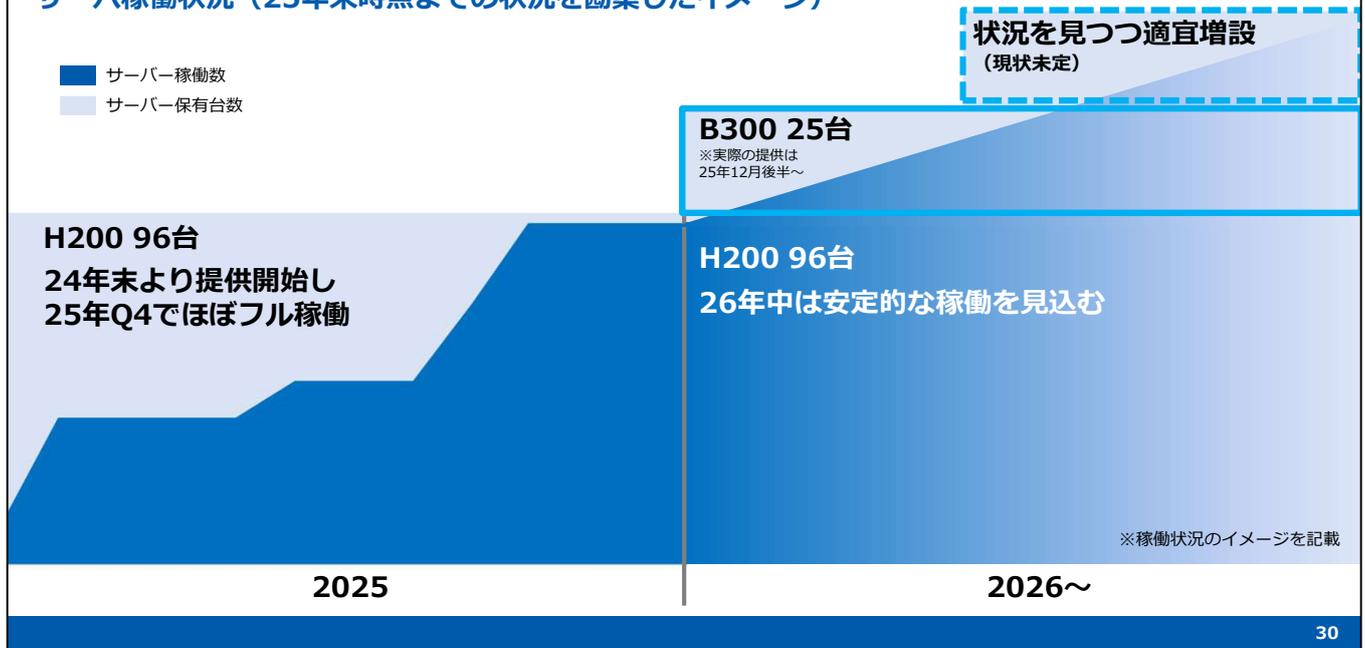
チューリングは、開発をできる限りシンプルに保ち、世界のAI開発における技術的トレンドを早期に取り込むことで高い開発速度を実現しています。高速なネットワークとストレージを備えるGMO GPUクラウドは、私たちの**開発思想とも高い親和性**を持っており、24時間体制のサポートによって**エンジニアの負担も大きく軽減されています**。今回の戦略的パートナーシップを通じて、AI計算基盤をさらに強化し、完全自動運転の実現に向けた開発をより一層前進させていきます。

29

こちらはチューリング 山本CEOのコメントです

チューリング社の非常に速い**開発速度**と、当社のGMO GPUクラウドの**開発思想が高い親和性**を持ち、技術面、サポート体制においても高くご評価をいただいています。

サーバ稼働状況（25年末時点までの状況を勘案したイメージ）



こちらは、2025年から2026年におけるサーバーの台数・稼働状況のイメージです。

2025年においては、順調に稼働率が高まり、年末にはほぼフル稼働、というところまで来ています。

2026年に関しては、今お話をさせていただいたTuring様のご利用などもあり、H200は安定的な稼働を見込んでいます。B300についても現在営業活動を進めておりますので、これらの稼働状況を勘案しつつ、サーバーの増設については適宜検討をしていく方針です。

**2025.12 (落札)**

GPU計算資源を提供

産総研：国立研究開発法人産業技術総合研究所

31

先日、産総研様が利用されるGPU計算資源を、GMO GPUクラウドが受託致しました。

また、従前より、産総研様が運営するAI開発基盤「ABC1」の需要がひっ迫した際には
連携してリソースの提供を行っています。
今後も、国の重要施策や先端研究プロジェクトへのリソース提供に積極的に参加してまいります。

CTC様と戦略的販売パートナー契約を締結



**CTC様の多様な
業界ネットワークを
販売・導入支援に活用**

続いて、幅広い業界への展開を加速するため、CTC様と戦略的販売パートナー契約を締結しました。

CTC様の多様な顧客基盤と当社の計算資源を組み合わせ、要件整理から運用までワンストップでお客様を支援してまいります。

HPCの国際会議「SCA/HPCAsia 2026」 ダイヤモンドスポンサーとして出展



HPC : High Performance Computing

33

こちらのトピックスは、
1月末に大阪で開催されたアジア最大級のHPC国際会議「SCA / HPCAsia」に
ダイヤモンドスポンサーとして出展しました。
学術領域でもGPUを活用したAI開発が加速しており、今後は、大学や研究機関への
展開も強化してまいります。



TOP500
世界37位 国内**6**位
(国内商用**1**位)
※1



GREEN500
世界34位 国内**1**位
※2



「ClusterMAX™2.0」
国内初「Silver」評価
※3

※1 : 2024年11月時点 ※2 : 2025年6月時点 ※3 : 2025年11月時点

引き続き技術・性能にこだわったサービスを提供してまいります。

- ① 既存事業の安定・継続成長
- ② インフラ×広告メディアの事業シナジー
- ③ 新規事業
- ④ 仲間づくり (M&A)



つづいて仲間づくり、一般的に言うM&Aの状況につきましてご報告させていただきます。

積極的仲間づくり (M&A) で成長加速



テーマ

- ・ 既存事業のシェア拡大
- ・ ストック型商品の強化
- ・ グループ内の組織再編

こちらは当社の仲間づくりに関する基本方針です。

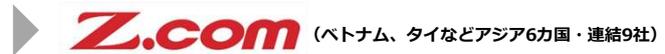
インフラ事業・広告事業の更なるシェアアップ、
岩盤収益がさらに強化されるストック商材の仲間づくり、
またグループ内の再編といったテーマをもとにご一緒できる仲間を探してまいります。

テーマ

2025年 振り返り

- ・ 既存事業のシェア拡大
- ・ ストック型商品の強化
- ・ グループ内の組織再編

3月：海外インフラ事業



11月：広告事業の一部事業譲渡

専門部門を設立し、検討を加速

2025年の振り返りはこちらです。

3月には25年3月にベトナム・タイなどの海外インフラ事業をGMOインターネットグループより取得いたしました。

また、11月には当社からGMOプロダクトプラットフォームへ、広告事業の一部事業の譲渡を実施しております。

なお、本年度より仲間づくりの専門部門を設立しており、さらなる検討の加速を図ってまいります。

今後お知らせできる内容がありましたら、適切なタイミングで開示させていただきます。

1. 2025年 通期決算サマリ
2. 成長戦略・各分野の進捗と施策
- 3. 2026年 業績予想・成長戦略**
4. 株主還元について
5. 参考資料

それでは続いて、2026年の業績予想・成長戦略についてご説明致します。

	2025年通期 累計	2026年通期 業績予想	成長率
売上高	785億円	820億円	104.4%
営業利益	82.2億円	94.6億円	115.0%
経常利益	83.4億円	91.0億円	109.0%
純利益	55.6億円	59.0億円	106.1%

新規事業の投資余地を確保しつつ、15%成長を目指す

39

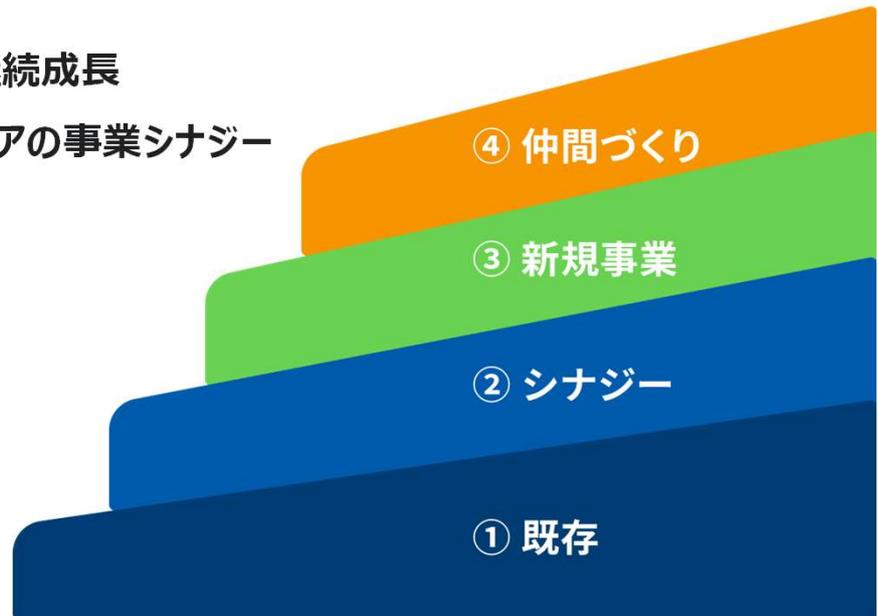
こちらが2026年の業績予想です。

売上高に関しては、GPUクラウドの売上通期貢献など、プラスになる要因はありますが、売上シェアの大きいインターネット接続事業が利益率増加に注力する方針です。また、広告事業においては業界全体の市場環境の変化が継続しており、限定的な増加の予想にしております。

営業利益に関しては、GPUクラウドなどの新規事業に対する投資の余地を確保した上で、15%成長を目指して行く方針です。

- ① 既存事業の安定・継続成長
- ② インフラ×広告メディアの事業シナジー
- ③ 新規事業
- ④ 仲間づくり (M&A)

**26年度も
本方針を継続**



2026年の成長戦略としては、25年1月より掲げているこちらの戦略を継続する方針です。

既存事業に関しては安定的に利益成長しており、引き続き強固な収益基盤として、利益貢献をしていくものと考えています。

インフラ・広告のシナジーに関しては、組織面の再編も落ち着き、本日お伝えをしたとおり、ある程度商品として形になるものが出てまいりましたので、売上・利益に関しても貢献できる規模となるよう、対応を進めてまいります。

新規事業のGPUクラウドについては、通期での黒字化・安定稼働に加え、状況により供給能力の拡大も適宜検討を行います。今後の商品の柱となるよう、さらなる成長を目指します。

最後に仲間づくりですが、こちらは基本方針にしたがって良いお相手と会えるよう、コンタクトを重ねてまいります。

プライム市場
上場維持基準

流通株式比率 35%以上

25年末の
見通し

流通株式比率 7.7%

対応期限

2026年 12月末

対応方針

GMOインターネットグループ[°] (9449) と
連携し、期限内充足に向け確実に対応

また、2026年において重要なポイントがもう1点あります。

当社は現体制になって以降、プライム市場の上場維持基準である流通株式比率35%に向けた取り組みを進めてまいりました。

流通株式比率の実績は25年1月の再編時点において1.6%でしたが25年末においては7.7%まで向上する見通しです。

26年12月末までにこれを充足する必要がありますので、期限内に確実に対応することを目指し、親会社であるGMOインターネットグループとの連携を進めていきます。

1. 2025年 通期決算サマリ
2. 成長戦略・各分野の進捗と施策
3. 2026年 業績予想・成長戦略
4. 株主還元について
5. 参考資料

つづいては、株主還元についてです。



※自己株式の控除調整実施前の配当性向となります
 ※記念配当は2025年—2026年の2年間を予定しております

こちらが今四半期の配当の状況です。
 本年度から四半期配当を実施するとともに、プライム市場への変更による記念配当により、
 基本配当性向65%、記念配当性向35%、合計して配当性向100%での配当を2年間行います。

よって、1株当たりの四半期純利益、5.64円を100%配当させていただきます。

通期配当予想

18.20円

当期配当実績

20.26円

	2025年 Q1	2025年 Q2	2025年 Q3	2025年 Q4	当期 配当累計	通期進捗
1株あたり 配当	4.61円	4.17円	5.84円	5.64円	20.26円	111.3%

これまでの配当実績についてはこちらに記載のとおりです。

通期配当予想である18.2円に対し、
今期の配当実績は20.26円、予想を11.3%上回る着地とすることができました。

一株当たり
四半期純利益

21.51円

×

配当性向

100%^{※1} (65% + 35%)
(基本配当性向) (記念配当)

||

通期配当予想

※2

21.51円

- ※1. 自己株式の控除調整実施前の配当性向となります
記念配当は2025年—2026年の2年間を予定しております
- ※2. 四半期配当は引き続き実施を致しますが、
配当予想に関しては通期のみとしております

こちらは2026年の配当方針です。

今期の業績予想に対する1株あたり純利益21.51円に対し、
配当性向100%として、通期で21.51円の配当を行う予定です。

- ▶ **新体制の初年度である2025年は
通期業績予想を上回り着地**
- ▶ **2026年の業績予想は営業利益94.6億円
15%成長を目指す**
- ▶ **GPUクラウド事業において、
チューリング株式会社と戦略的パートナー契約締結予定**
- ▶ **四半期配当実施・配当性向100%は継続^(※)**

※記念配当は2025年・2026年の2年間を予定しております

46

最後に、本日のポイントについて改めてまとめます。

まず通期業績に関しては、新体制の初年度である2025年を、全指標において業績予想を上回り終えることができました。

2026年に関しては、2025年から15%成長となる営業利益94.6億円を業績予想としています。

GPUクラウド事業については、Turing様と戦略的パートナーシップ契約を締結し、事業の中長期的な安定化と、今後に向けたさらなる拡大を目指していく予定です。

配当については2026年においても100%配当を行うとともに、四半期配当の実施を継続してまいります。

すべての人にインターネット

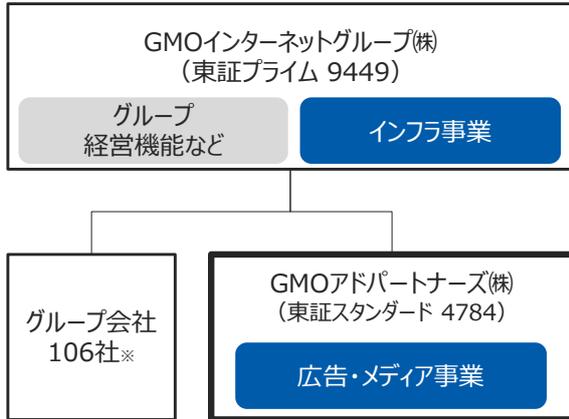
GMO

ご説明は以上でございます。
ご清聴、誠にありがとうございました。
すべての人にインターネット

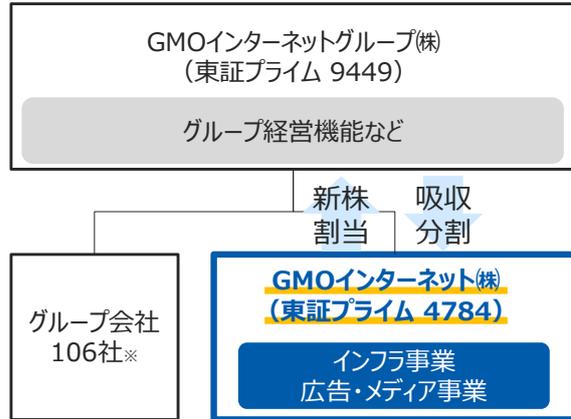
1. 2025年 通期決算サマリ
2. 成長戦略・各分野の進捗と施策
3. 2026年 業績予想・成長戦略
4. 株主還元について
5. 参考資料

GMOインターネットグループ^〇(株)の事業を、GMOアドパートナーズ^〇(株)へ承継し、
GMOインターネット^〇(株)に社名変更。GMOインターネットグループ^〇(株)は持株会社化。

～2024.12.31



2025.1.1～



※2024年12月時点

パートナー (社員) 数

国内：1,115名 海外：968名 (2025年12月時点)

拠点

東京・大阪・宮崎・北九州・仙台・沖縄
タイ・ベトナム・フィリピン・モンゴル・ミャンマー・ラオス

2025年 売上高

785億円

連結グループ会社

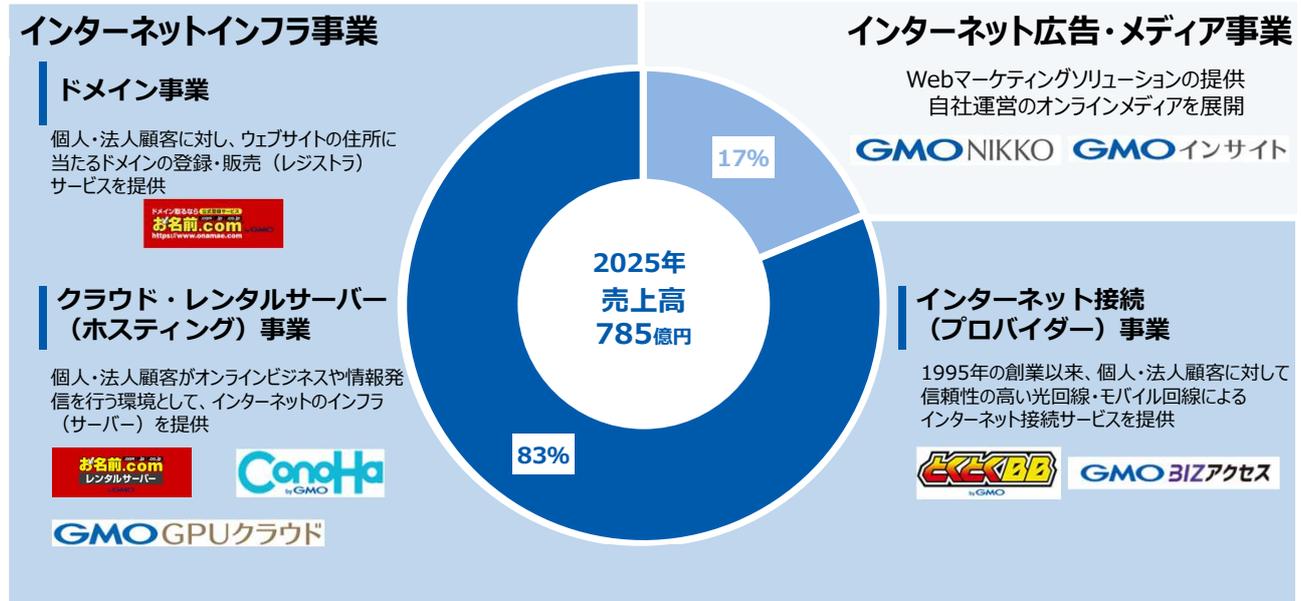
GMO NIKKO GMO INSIGHT Z.com 海外9社

企業サイトURL

<https://internet.gmo/>

代表者

代表取締役社長 伊藤 正 代表取締役副社長 橋口 誠



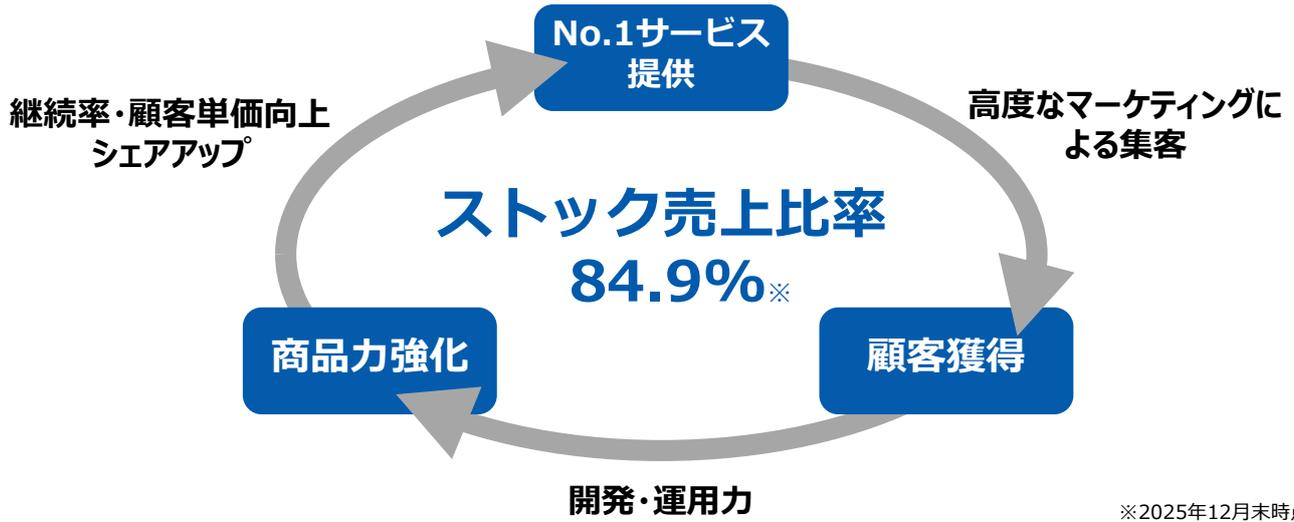
無くない、無くてはならない
かつ
継続課金の商材



契約件数 **1263**万件 ※

※2025年12月末時点 国内件数

No.1サービスの提供およびマーケティング力の強化により顧客開拓・獲得の加速を目指す
経験豊富なエンジニアの開発力を活用し、高品質なサービスの提供や満足度・継続率の向上を目指す



(単位：百万円)

流動資産		流動負債	
現預金	13,888	短期借入金・1年以内返済長期借入	1,381
受取手形、売掛金及び契約資産	12,135	未払金	6,665
前払費用	6,580	買掛金	3,586
その他	3,081	契約負債	10,241
流動資産合計	35,686	その他	8,806
固定資産		流動負債合計	
工具器具備品	5,402		30,685
リース資産	2,784	固定負債	
その他	1,013	長期借入金	4,123
有形固定資産合計	9,201	リース債務(長期)	2,290
のれん	1,335	その他	359
ソフトウェア	1,791	固定負債合計	6,773
その他	706	負債合計	37,459
無形固定資産合計	3,832	株主資本	
投資有価証券	1,016	資本金	500
繰延税金資産	1,199	資本剰余金	9,621
その他	592	利益剰余金	3,321
投資その他の資産合計	2,808	自己株式	-179
固定資産合計	15,842	株主資本合計	13,263
		その他の包括利益累計額	422
		自己資本合計	13,686
		新株予約権	206
		非支配株主持分	176
		純資産合計	14,069
資産合計	51,528	負債純資産合計	51,528

・ 前四半期と比較して大きな変動なし

・ のれん：Z.com海外インフラ事業分
 借入金：主にGPUクラウド投資によるもの
 リース債務：GPUクラウド投資によるもの

投資実績 / 計画

- 2023/12 ○ NVIDIAパートナープログラム参画
- 2024/ 2 ○ NVIDIA H200搭載GPUサーバー
約**100億円**の投資を公表
- 2024/ 4 ○ 経済産業省「クラウドプログラム」供給確保計画の
認定取得。最大**19.25億円**の助成予定を公表
- 2024/11 ○ GMO GPUクラウドサービス開始
- 2025/ 3 ○ 追加ストレージへ**2億円**を投資
- 2025/ 5 ○ H200GPU-256基 B300への投資に変更
(=H200追加購入なし)
~~15億円を追加投資(5/14発表)~~
- 2025/ 8 ○ B300 GPU搭載GPUサーバー25台へ**22億円**を投資
- 2025/12 ○ B300 追加投資分**25台** 順次稼働開始

投資計画に更新なし

B300稼働開始

Q : 今後のGPUクラウドの追加投資に関する方針を教えてください

A :

- ・追加投資に関しては、サーバーの稼働状況を見ながら最適な投資ボリューム・タイミングを検討することとしています。
- ・足元の状況としてはH200がほぼフル稼働しており、B300も25年末から提供開始している状況ですので、これらの状況を見つつ、さらなる成長に向け、適宜投資を行ってまいります。

Q : GMOインターネットグループ（9449）による株式売却状況について

A:

- ・2025年7月29日および10月29日にGMOインターネットグループ株式会社（以下、GMO-IG）より 開示がありましたとおり、GMO-IGでは、当社株式の売却を市場への影響を鑑みつつ適宜実施しているものと認識しています。
- ・当社の流通株式比率の改善に向けた取り組みと認識をしており、いわゆる株式の売り出しや増資とは異なり発行体側は関与しないためこれらの売却に関し、当社では詳細を把握しておりません。
当社は流通株式比率の改善はプライム上場維持に向けた重要な課題と認識しており、引き続きGMOインターネットグループ株式会社と連携のうえ改善につとめてまいります。

Q : 仲間づくり (M&A) について、足元の進捗状況は

A:

- ・既存事業のシェア拡大・ストック型商品の強化に向けては、継続的に対象会社へのコンタクトなど、ソーシング活動を実施しています。それぞれの詳細については、検討中の段階においてはどうしてもお伝えすることが難しいものではあります。経営陣も積極的に関与しつつ検討を継続しています。
- ・一方で、流通株式比率の基準達成・プライム市場への上場維持を当社は最優先の課題と位置づけており、売出しの実施といった局面においては、適切なインサイダー情報のコントロールが要求されます。
- ・こうした状況を鑑みつつ、仲間づくり案件の実施に関しては、慎重さとスピード感を両立できるよう、適切に検討を進めてまいります。

Q : 5月26日の売り出し中止の開示について、背景と今後の方針は**A:**

- ・当社は5月14日に「上場維持基準の充足を目指した株式の売出しに関するお知らせ」の開示を行ったのち、5月26日に「市場動向を鑑みた株式の売出しの中止に関するお知らせ」の開示を行いました。当社の株価変動や足元の市場動向を鑑み、当社株主の皆さまにとっての最適な条件を図る観点から慎重に検討した結果、5月26日時点での売出し実施は適切ではないと判断し、同日開催の取締役会において本売出しの中止を決議したものととなります。
- ・東京証券取引所プライム市場への上場維持に関しましては、これまでお伝えしている「プライム市場への上場維持は当社にとって重要である」という認識に変更はございません。引き続き、親会社であるGMOインターネットグループほか関係各所と協議を継続し、流通株式比率改善に向けた取り組みを検討してまいります。

	変更前 (~2024)	変更後 (2025~)
基本配当性向	50%	65%
記念配当性向 (2025-2026)	-	35%
総配当性向 (2025-2026)	50%	100%
配当回数	年1回	四半期配当
株主優待	<ul style="list-style-type: none"> ・ GMOクリック証券 売買手数料のキャッシュバック ・ GMOクリック証券 当社株式買付手数料のキャッシュバック (上限1万円) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ GMOクリック証券 当社株式買付手数料相当額 (株式買付代金×0.03%) (小数点以下切り上げ) に相当する ビットコイン付与 (上限1万円)

※1：配当性向の向上に伴い、GMOクリック証券における売買手数料のキャッシュバックは廃止となりました。

※2：GMOクリック証券において2025/9/1より株式取引手数料が無料となることに伴い、当社株式買付手数料に関するキャッシュバックを下線部の通り見直しました。

セグメント	サブセグメント	内訳
インターネット インフラ事業	ドメイン・ レンタルサーバー事業	  GMO GPUクラウド
	インターネット接続事業	 GMO BIZアクセス
	インターネットインフラ事業 その他	海外事業 インフラ事業 共通費等
インターネット広告 ・メディア事業	インターネット広告 ・メディア事業	GMO NIKKO GMO INSIGHT
	インターネット広告 ・メディア事業 その他	広告事業 共通費等
その他及び連結消去		全社共通費等 連結消去

- ・決算短信においては、セグメント別の売上・営業利益を開示しております。
- ・当決算説明資料における区分は、決算短信のセグメントに関し内訳を詳細にご説明できるようサブセグメントを設けております。
- ・各セグメント内におけるサブセグメントの合算値がセグメントの値と同一となるよう区分をしております。

【取締役】



取締役会長
熊谷 正寿



代表取締役
社長執行役員
伊藤 正



代表取締役
副社長執行役員
橋口 誠



取締役
安田 昌史

【監査等委員である取締役】



取締役監査等役員
岩濱 みゆき



取締役監査等役員
杉野 知包



取締役監査等役員
鮎川 拓弥

【執行役員】



副社長執行役員
山下 浩史



常務執行役員
林 泰生



常務執行役員
児玉 公宏



執行役員
菅谷 俊彦



執行役員
佐久間 勇



執行役員
徳永 伸一郎



執行役員
齋藤 稔



執行役員
牧田 哲

本資料取扱い上のご注意

本資料は、当社の企業説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2026年2月12日現在のデータに基づいて作成されております。

本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

本資料に引用しております各社商標、著作物等知的財産権、並びに肖像権その他一切の権利は、当該知的財産権を有する各権利者並びにその権利の主体に帰属します。

GMO INTERNET